

# きずな



北九州市立折尾西小学校

学校だより 2月号

令和2年2月3日(月)

校長 成重純一

## 地震の避難訓練

25年前に発生した阪神淡路大震災では、6000人以上の方が亡くなりました。先月、大震災が発生した日と同じ1月17日(金)に、地震発生を想定した避難訓練を行いました。子どもたちは、大変静かに、また、迅速に運動場に避難することができました。

地震は、火災と違って、我々の注意だけでは予防できず、いつ発生するか分かりません。そして、訓練では、当たり前のように放送で避難開始を伝えていても、地震発生となれば、放送機器が使えとは限りません。子どもたちには、どんな状況になっても、聞こえてくる指示や音をよく聞き、落ち着いて行動するように伝えました。



## ブロック塀の工事

一昨年に起きた大阪北部地震で倒れたブロック塀の下敷きになり、登校中の児童が亡くなりました。その事故を受けて、全国で学校敷地内の塀を設置し直しています。本校でも、運動場北側の塀について、再設置作業が進んでいます。通常の学校への出入りには直接影響はありませんが、運動場を使う団体の関係の方は、所属する子どもたちが怪我をしないように、ご注意ください。



## 読書は語彙を増やす

図書室に行って、『おしりたんてい かいとうVSたんてい』(トルロ作)を読みました。『おしりたんてい』シリーズは、低学年の子どもに大変人気のある本です。

内容は、明智小五郎と怪人二十面相の対決を思い出させるようなもので、つい夢中になってしまいました。平仮名の表記は多いものの、場面の描写は、とても分かりやすいです。

読んでいくと、こんな記述がありました。「おしりたんていが 外を見ると、くろくなみだつ うみがひろがっていました。」「さすがの かいとうUも、へんそうで まぎれこむのは むずかしいですね。」きっと、これらの文を読んだ子どもたちは、そのページの挿絵や前後の文脈から、「なみだつ」や「へんそう」の意味を理解するのだらうと思いました。

言葉は、考えたり表現したりするときの大切な道具です。もっている言葉の種類が多ければ、複雑で長い文章を読んだり書いたりすることが可能になります。読書は、新しく出会った言葉を自分の道具箱に入れるきっかけになります。ご家庭でも、お子さんに読書の機会をつくってあげてください。